うぉーみんぐ

NO.24 春

京都府地球温暖化防止
活動推進センター通信

地球温暖化問題に取り組む人のための通信です。
実践活動への意欲を、アイデアを、仲間同士の関係を、ホットに温めます！

特集

エコしている「つもり」の家庭の「省エネのツボ」を押さえる
～兵庫の「うちエコ診断」の経験から

（写真）
左上・右下：第５回推進員全体研修会
右上・左下（写真提供：西澤由隆氏）

京都府地球温暖化防止活動推進センター
Kyoto Center for Climate Actions

京都府地球温暖化防止活動推進センターは、府内の温暖化防止活動を様々な面からサポートし、一層活性化させることを目的に活動するセンターです。平成 15 年 10 月 10 日、府内の多様な団体が連携し新たに立ち上げた NPO 法人　京都地球温暖化防止府民会議が京都府知事からセンターとしての指定を受け、その活動を開始しました。

京都府地球温暖防止活動推進センターの活動は、国、京都府、府内の多様な団体、会員の皆様などのご支援によって支えられています。

長岡中央商店街が銀賞受賞！
環境省「ストップ温暖化『一村一品』大作戦」全国大会レポート

活動レポート

お知らせ

特集

エコしている「つもり」の家庭の「省エネのツボ」を押さえる

～兵庫の「うちエコ診断」の経験から

はじめに…

鳩山さんは後10年で温室効果ガスを25%削減することを目標にしてるって聞いたけど、何をどんだけ減らしたらその数字になるのか、も一つピンとこんわ～

わたしらもエコが大事だと思って取り組んだりしてるけど、どんな取組みがどれだけ効果があるか、もっとちゃんと説明したいわ～

最初に省エネ製品でお金がかかる分、後々どんだけ得になるのか知りたいわ～

そんな疑問に答を出し、個別の家庭のCO_2削減に効果的なアドバイスを行うことを目的として、兵庫では2008年から「うちエコ診断」の取組みがスタートしており、京都でも2010年度よりモデル地域での実施を計画しています。

そこで、この取組みをスタートさせた第一人者である、財団法人地球環境戦略研究機関（IGES)関西研究センター研究員の松尾雄介さんにお話を伺いました。

この方にお聞きました

（財）地球環境戦略研究機関（IGES)研究員
松尾　雄介さん

－「うちエコ診断」を始められたきっかけ、そして、これまで取り組まれているような「環境家計簿」「省エネ診断」とどこが違うのか、について教えてください。

松尾：温暖化防止の啓発活動や環境教育はこの10年ずっと取り組まれてきて、環境意識はどんどん高まっているのに、家庭のCO_2の排出量は減らない、このギャップを埋められないか、というのが「うちエコ診断」の出発点でした。ギャップを埋めるためには、もう一歩突っ込んだ形の情報提供などのアプローチが必要ではないか、人が行動に移るためには、どのようなプロセスが必要で、どのような心理的な後押しがあれば行動しやすいのか、を考えました。

家庭の温暖化防止については、みんな何となくはわかっているけど、何から取り組めばいいのか、あまりすっきりしないもやもや感があるのではないか、そのもやもや感を、うちエコ診断を通じて、すっきりさせてあげようというのが、この診断の狙いです。（↙）

うちエコ診断の流れは、人が温暖化防止の行動に移る際のストーリーを意識して作られています。最初に、診断を受ける方には環境教育を行って、温暖化問題に対する意識を高めます。兵庫ではみなさんに「不都合な真実」のDVDを事前に見てもらいました。

そうして意識を高めてもらった状態で、「あなたはどれだけのエコの取組みをしていますか？」とアンケートでお聞きして、合わせて機器の使用状況や光熱費について聞きます。そうするとこのプログラムでは「あなたは100人中○○位です」と、診断を受けた方のCO_2排出量が、地域全体の中でどのくらいの順位にあるのかが示されます（図1）。そうすると、「自分はエコについては頑張っているつもりだったのに、まだまだ上がいっぱいいるんだ」ということに多くの方が気付かされ、何とかしなきゃ、と思っていただけるようになります。

そこで、温暖化防止のために社会的に求められている目標（例えば日本の家庭平均で50%減）を達成するには、現在の地点からどこまで減らす必要があるのかを示します（図2）。この２つで、かなり「すっきり感」「気づき」「なるほど感」が生まれるようです。

ここでは用途別のCO_2排出量内訳も示されるので、電気の省エネには一生懸命取り組んでいたと思っていた人が、実はそれよりクルマや給湯のウェイトが大きいことにびっくりする、ということも、診断の中ではよくありました。

そしてさらに、用途ごとの対策を次のステップ（図3）で示すことができ、その対策（例えば太陽光発電を設置する）をとれば、CO_2が何%減って、経済的にはどれくらいで元がとれるのかを、各家庭の実情に応じて示すことができます。

ここまでで診断そのものは終わりですが、実際にはその後、診断を受けた方がどのような行動を実際に行ったのか、行おうとしたのかのフォローアップが非常に重要です。

図1（画像提供：IGES関西研究センター）

図2
画像提供：
IGES関西研究センター

図3
画像提供：
IGES関西研究センター

例えば、診断結果から高効率給湯器の導入が有効な対策であることがわかって、興味がわいた家庭があると、「じゃあ実際にうちで付けることができるのか。いくらするのか。機能は？」という話に結構なります。このあたりは、現状では診断のマニュアル化は難しくて、診断員の力量にまかせている部分でもあり、今後どのようにシステマチックに対応していくかは課題です。

－診断員は兵庫ではどのようにして集められたのですか？

松尾：昨年度は100件の診断を行い、今年度も継続しているのですが、今のところ診断員は30人限定としています。どういう方が診断員に適しているのかも見たかったので、建築系のNPOの方、温暖化防止活動推進員、省エネルギー普及指導員などいろいろな人に声をかけて、70人ほど応募があり、そこから絞り込みました。

絞り込むにあたっては、対面型の診断が中心となるので、コミュニケーション力を最も重視しました。それと診断プログラムを扱える程度のパソコンの能力、そして、事前研修を行った上での試験を行って、結果をみました。

－モニター家庭はどうやって声をかけて集められましたか？

松尾：これが一番難しくて、兵庫では主に企業とタイアップして、CSR活動の一環として、従業員さんの家庭で診断を受けて頂く形を取りました。それでも、家庭訪問診断というスタイルは少しハードルが高くて、これからは、逆にこちらの窓口に来ていただいたり、職場の会議室で時間をもらって個別に診断したり、というスタイルを試しています。ここのところは、ぜひ他地域のセンターで、それぞれのノウハウやネットワークを活かして、工夫していただくことを期待しています。

－これまで診断を受けられた家庭の感想は、どのようなものがあったでしょうか。

松尾：例えば電気代には関心があって節電に熱心に取り組んでいても、それ以外の給湯や自動車移動の要素には目が向いておらず、実はそちらの方がウェイトが高いので、たとえば省エネに取り組んでいる「つもり」なのに、CO_2量は100人中80位だった、というような人が結構おられます。こうした人にはうちエコ診断は良い効果をもたらしたと思います。

こうした、温暖化防止に向けた行動の期が熟しているのに、効果的な行動に移せていない、いわば「打てば響く」人たちに診断対象のターゲットを絞り込んで、質の高い診断を行えば、この診断プログラムは大変効果があると思っています。例えば昨年度は、この診断がきっかけで太陽光発電を導入された家庭が100軒中5～6軒ありました。しかし、診断する家庭のおかれた条件や、診断内容について深く考えずに診断件数ばかり増やしても、さほど効果はないと思われます。そういった意味で、この診断プログラムもすべての人に対して万能なものではありません。

－これから新しくうちエコ診断をはじめようとする地域にメッセージをお願いします。

松尾：診断結果から、その家の「省エネのツボ」をうまく見つけることができたときは、診断していてとっても充実感があります。そういう職人的な診断の域に、診断全体を高めていければと思っています。診断を受けられた方も、事前は診断に対して少し抵抗感があるのですが、診断後の感想はほとんどの方が「受けてよかった」と言われ、それはとても嬉しいことです。

診断の様子

銀 長岡中央商店街が銀賞受賞-!

環境省「ストップ温暖化『一村一品』大作戦」全国大会レポート

全国大会終了後、表彰状とトロフィー、手づくりLEDランプを手に記念撮影！

2月13日（土）、14日（日）、東京都港区のニューピアホールで、環境省主催**「ストップ温暖化『一村一品』大作戦」全国大会**が開催されました。

京都府代表として出場したのは、昨年12月の京都府大会（きょうとECO-1グランプリ）でグランプリを獲得した**長岡中央商店街振興組合（長岡京市）**です。

① 手づくりLED街灯でCO_2を9割削減！

阪急長岡天神駅前東西に延びる**長岡中央商店街（アゼリア通り）**では、商店街会員と企業協賛金の減少により、商店街灯にかかる**年間90万円の維持管理費**（電気代＋電球交換代）が大きな負担になっていました。従来の商店街灯は1基180Wの水銀灯。蛍光灯の導入も考えましたが寿命の短さがネックになり・・・

「このままでは来月から街灯を消さなあかん」「省エネで長寿命なLEDにできへんか？」という話が出たのが3年前。しかし当時、LED街灯の市販品はありませんでした。**「そしたら自分たちでつくろう！」**会員からそんな声があがり、岩崎照明（亀岡市）の協力のもとLEDランプを自作し始めたのです。試行錯誤の末、2008年6月に**1基20W弱のランプが完成**し、6ヶ月間の耐久テストもクリアしました。

その後、**地元小学校などでLEDランプ製作会を実施**。防水加工と点検を経て、2009年度中に全84基の交換を終えます。これにより**維持管理費を年間60万円節約**でき、**CO_2排出量は90％削減**される予定です。

水道用パイプの芯にLEDモジュールを配置し、カバーは風呂用電灯カバーを利用！

たくさんの試作品をつくり、改良に改良を加えて完成させました。

2009年11月、長岡京市立神足小学校5年生の理科の授業でLEDランプ製作会。学校や地域での製作会は、計8回開催しました。

② いざ、全国大会へ！

この取り組みで全国大会出場を決めた同商店街。2月13日の朝、6時台の新幹線で京都を出発しました。京都府代表の発表は9番目、**パワーポイントで活動の概要を紹介**した後、**LEDランプをともしながらメッセージを訴え**、4分間の発表を終えました。

翌2月14日の午前は意見交換会とポスターセッションで他県代表と交流。そして午後から審査発表が行われ、**京都府代表は栄えある銀賞を受賞しました！**

47都道府県代表の発表は、寸劇・着ぐるみなどのパフォーマンス満載！（写真は鳥取代表）

京都府代表の発表は、パワーポイントを使った活動紹介からスタート。

LEDランプ製作会に参加した子どもが、観客席にメッセージを語りかけます。

思いを込めて、ランプをひとつひとつ点灯。発表途中にもかかわらず、観客席から大きな拍手がわき起こりました。

③ 広がりつつあるLED商店街灯

同商店街の手づくりランプがプロトタイプとなり、LED街灯の市販品が開発されました。そして、亀岡市の12の商店街（計455基）を始め、**府内にLED商店街灯が広がりつつあります**。来年度は同じ長岡京市のセブン商店会でも、LED商店街灯を導入することが決定しました。

長時間営業する店が増え、**民生業務部門からのCO_2排出量は大幅に増えています（90年比43.8%増※）**。しかし、商店街灯は防犯上重要であり、簡単に消灯するわけにはいきません。商店街灯のLED化は、民生業務部門の排出削減に貢献する、大変意義のある取り組みであるといえます。

※環境省「我が国の温室効果ガス排出量」2007年度データより

LED街灯の寿命は10年間。子どもたちの名前やイニシャルが記されたランプが、10年後まで街を照らし続けます。

全国大会では、充実した活動を行っている他県代表と交流でき、「LEDランプはこうすればもっとよくなるよ」といったアドバイスもいただけて、とても勉強になりました。

また、東京行きにあたって多くの方から寄付をいただき、京都府大会に出場したメンバー全員で発表することができました。本当に感激しましたし、環境の活動もこれと同じで、一人ひとりの力が集まれば社会を変える力になるんだなと実感しました。

大会出場を通じて、商店街の結束が強くなったと思います。みんなの意識が「環境にいいことをしていこうよ」という方向に向いているので、今後も新たな目標を定めて活動していきたいと思います。応援してくださった皆さん、本当にありがとうございました！

長岡中央商店街振興組合
理事長　中小路　貴司さん

活動レポート

京都府地球温暖化防止活動推進センターの主な活動を報告します

2009年秋カエデ紅葉日調査結果発表
-2008年同様に遅く-

2008年秋から京都府温暖化防止活動推進センターと龍谷大学増田教授との共同調査を始めています。2009年秋も、11月8日(日)から12月13日(日)までの期間にカエデ紅葉調査を行い、その結果を増田先生に分析していただきました。調査には、京都府地球温暖化防止活動推進員の他、行政関係者、sky大学の受講生、龍谷大学の大学生など59名の方に協力していただき、観測地点数162地点のデータが集まりました。

イロハカエデの紅葉日調査結果（2009年）
提供：龍谷大学経済学部教授　増田啓子氏

このデータをもとに、右図のような紅葉日マップが完成しました。これを見ると、府内で最初に紅葉日を迎えたのは南丹市美山町の11月15日、そこから府内全域へと徐々に広がり、京都市内の多くの地点では12月5日前後が紅葉日だったことがわかります。この結果は2008年秋に同じ方法で実施した調査とほぼ同様の結果となりました。

京都市内の紅葉日は、1980年代には11月23日ごろだったと言われていますので、それから比べると、2008年、2009年はともに2週間近くも遅かったようです。

※今後も継続的して「サクラの開花日・カエデ紅葉日調査」を実施する予定です。本調査については京都府地球温暖化防止活動推進センターのホームページから調査資料が入手できますので、今後も調査にご協力ください。

2010.1.23
交流セミナー「町家でほっこり・冬の快適省エネ術」

パネリストによる報告

「冬に底冷えがする」「すきま風が寒い」「暖房に電気代ガス代がかかって大変」・・・古き良きすてきな町家も、冬場の寒さに関する悩みも多いもの。そこで、当センターが事務局を務める「京都省エネ住宅・省エネリフォーム普及協議会」は、冬の町家暮らしをいかに省エネで快適なものにするかをテーマとして、1月23日（土）に「ひと・まち交流館」において表題のセミナーを開催しました。このセミナーには、町家の住まい手と改修を手がける工務店、研究者らに参加していただき、それぞれの立場から、生活の中のちょっとした知恵から本格的な改修まで、様々な工夫の例を紹介していただきました。後半のディスカッションでは、「町家」から「町家風住宅」まで様々な形態があることを住まい手や建築士が認め合い、その住まいにあわせた住まい方・改修方法を選んでいく必要があることなどが話されました。

2010.1.30〜1.31
最終回京都府地球温暖化防止活動推進員研修会を開催

1月30日・31日に、2009年度最後となる推進員全体研修会を実施しました。最終回には、ファシリテーターの専門家である青木将幸氏を招いて、地域での温暖化防止活動を企画するワークショップを行いました。

はじめに、企画を行う前の準備として、今年度の振り返りを行い、「今年度の活動に点数をつけると何点？」「やりがいを感じた時はどんな時？」などの項目について考えました。その後、企画をする際のポイントとして、どのようなことに注意すると良いか意見を出し合い、「さまざまな団体とつながること」や「親睦会をすること」「地方紙を活用すること」などが出され、青木氏からはアイデア・スキル・ネットワークが大事であるとまとめていただきました。最後に、それぞれ興味が重なっている推進員さんたちでグループをつくり、地域での温暖化防止活動の企画をしました。

研修後の推進員さんのアンケートからは、「企画のポイントを整理しながら活動計画をたてていきたい」、「他地域の人の活動内容が参考になった」といったコメントが多く、来年度の活動に意欲を持っていただける時間となりました。

来年度の活動を企画するグループワーク

自己紹介の様子

2010.2.20〜2.21
セミナー「今こそ知りたい！太陽光発電　最新事情」を実施しました。

2月20日に福知山市内で、21日に宇治市内及び長岡京市内で、セミナー「今こそ知りたい！太陽光発電　最新事情」を開催しました。講師は、太陽光発電普及拡大センター（J-PEC）副センター長の橋野満氏。太陽光発電の仕組みや歴史から最新の支援制度まで、様々な情報をお聞かせいただきました。3会場合計で200名もの参加があり、どの会場においても時間が足りなくなるほど多くの質問が出されるなど、太陽光発電に対する関心の高さが伺える2日間でした。

橋野氏による講演

2010.3.9
「カーボン・フットプリントセミナー〜京都企業の低炭素形製品開発を見える化する〜」を開催しました。

3月10日に京都工業会館にて、京都府・(社)京都工業会との共催により、表記のセミナーを開催しました。国のカーボン・フットプリント制度の取りまとめを担っている(社)産業環境管理協会・壁谷武久氏による基調講演の後、㈱ジーエス・ユアサ・コーポレーション環境統括部・長畑和典担当部長より、鉛蓄電池とリチウムイオン電池のカーボン・フットプリントの比較計算結果の報告、当センター渕上より、京都府産木材を使用した合板のカーボン・フットプリントの計算結果の報告がなされました。その後のディスカッションでは、地域で業種を超えて、製品のCO_2情報の見える化を進め、低炭素型ものづくりを促進させていくことの可能性について議論を行いました。

パネリストによるディスカッション

お知らせ

NEW「温暖化紙芝居」をリニューアル！！

2005 年度に京都府温暖化防止センターが作成した「温暖化紙芝居」を改訂しました。

01 ～ 08 までは温暖化の影響や現状などの基本的な情報をまとめており、それ以降（09 ～ 20）が温暖化防止のネタをテーマ別にまとめた内容となっています。

具体的には、09 ～ 14 までは家庭でできる省エネのネタを中心に、15 ～ 17 はみどりのカーテンの意義や効果について紹介しています。さらに 18 ～ 20 はフード・マイレージや地産地消についてまとめた内容となっています。

温暖化紙芝居（A3サイズ）

紙芝居の 01 ～ 08 を用いて基本的な温暖化の情報について紹介した後、学習会のテーマに合わせて、09 ～ 14（家庭で出来る省エネのネタ）、15 ～ 17（みどりのカーテン）18 ～ 20（フード･マイレージ）のそれぞれを組み合わせてご活用ください。

20 セットご用意しておりますので、ご入用の場合はセンターまでご連絡ください。

温暖化紙芝居の構成

-温暖化の影響や現状-

01 とける氷河（前）
02 とける氷河（後）
03 紅葉の変化
04 紅葉の変化
05 京都のイロハカエデの紅葉は遅くなっている
06 日本の気温も上がっている
07 京都はすでに 60 年前の鹿児島と同じ気温に！
08 国別一人当たり二酸化炭素排出量

-家庭でできる省エネのネタ-

09 家庭からでる CO_2 の量（用途別集計）
10 夏と冬、どっちがたくさんの CO_2 を出している？
11 暖房はどれが省エネ？
12 電球はどれが省エネ？
13 一人を 1km 運ぶ時の CO_2 排出量
14 省エネで心地いい住まい方・くらし方

-みどりのカーテン-

15 みどりのカーテンで夏を涼しく
16 みどりのカーテンはどうして涼しいの？
17 サーモグラフィーで見てみると・・・

-フード・マイレージ-

18 世界のフード・マイレージ（2001 年）
19 きゅうり 1kg の生産投入エネルギー
20 地元で採れた旬の野菜を食べよう

京都府地球温暖化防止活動推進センター通信「うぉーみんぐ」

（平成 22 年春号　平成 22 年 4 月発行（年 4 回発行））

発行：京都府地球温暖化防止活動推進センター
（特定非営利活動法人　京都地球温暖化防止府民会議）
理事長：郡嶌 孝　　運営委員長：浅岡 美恵
〒 604-0965　京都市中京区柳馬場通二条上る六丁目 283 番 4
TEL：075-211-8895　FAX：075-211-8896
URL：http://www.kcfca.or.jp　E-mail：center@kcfca.or.jp

編集：伊東真吾　川手光春　木原浩貴　竹花由紀子　西澤浩美　渕上佑樹　吉川春菜

法人の活動を支えてくださる会員を募集しています！
年度会費　正会員（個人）：2,000 円　正会員（団体）：3,000 円
準会員（個人）：2,000 円　準会員（団体）：3,000 円
賛助会員：10,000 円
詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。

この印刷物は、古紙配合率 100％の再生紙に、大豆インキで、風力発電による自然エネルギーを使って印刷しています。